

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：34602

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：20K21976

研究課題名(和文)『うつほ物語』前田本系統の本文成立史に関する基礎的研究

研究課題名(英文)The textual formation of Utsuho-monogatari's Maeda textual lineage : a basic historical study

研究代表者

高橋 諒 (Takahashi, Ryou)

天理大学・図書館・司書研究員

研究者番号：50880233

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：『うつほ物語』の現存諸本のうち、最有力伝本である前田本と、その本文系統である前田本系統の伝本、そして同系統の来歴を伝える関係諸資料を博捜し、悉皆調査および紙焼写真の収集を行った。その上で、同系統諸本の本文を比較・対照できるように、各伝本の翻刻や校本データ作成を行った。これにより、従来等し並みに捉えられてきた前田本系統が実は三種に類別されることが判明した。また、各類の本文の性質およびその書承関係が把握できたことで、『うつほ物語』の本文成立史の一端が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『うつほ物語』の本文成立史の一端が明らかになったことで、これまで注釈者によって判断が分かれていて解決をみていなかった、底本や対校本の選定や、本文校訂の方法などを見定められる。これによって、『うつほ物語』の本文を校訂し、読解に堪えうる本文の提供が可能となる。

研究成果の概要(英文)：The most dominant manuscript of Utsuho-monogatari in existence is the one previously owned by the Maeda family (henceforth the Maeda-bon). To shed light on the history of the textual lineage based on the Maeda-bon, the author of this paper has searched far and wide for the actual text, various members of the lineage and related materials. After investigating those copies and collecting their paper prints, the author transcribed each of them to facilitate comparison. This has led to a discovery that the Maeda textual lineage is not as uniform as commonly thought but actually has three distinct strains. The research has also helped grasp the quality of the texts and how they are related by written transmission.

研究分野：うつほ物語

キーワード：うつほ物語 前田本系統 伝本 本文

1. 研究開始当初の背景

平安中期に成る『うつほ物語』は、主人公仲忠を中心とする秘琴伝授の音楽物語を大枠として、あて宮求婚譚、立太子争いの物語を織り込む現存最古の長編物語である。作中人物の心理描写、行事、遊宴の細叙や和歌の群作など、物語史上『源氏物語』成立に至る種々の過渡的性格を内在しており、文学史上高く評価すべき作品である。『源氏物語』とともに平安文学の双璧をなす『枕草子』では、『うつほ物語』の登場人物である仲忠・涼の優劣論が展開されるなど、平安期においては非常によく享受されたことが明らかである。

近世期にも古典復興の気運に支えられ作品が再発見され、その広範な享受があったものの、中世期に長く享受が途絶えた時期があった。そのため、伝本は中世末期を遡る古写本が存在せず、本文には諸本共通して錯簡・誤脱が少なくなく、文意不通の箇所を多く擁する。同じく平安期に成立した『伊勢物語』『源氏物語』などと異なり、『うつほ物語』は古写本に恵まれていない状況にある。

諸本については、主要な伝本研究(片寄正義「宇津保物語伝本考」『国語国文』第7巻第2号1937年、笹淵友一「うつほ物語諸本解題」『校本うつほ物語 俊蔭巻』興文社1940年)によって大略を把握できる。しかしながら、これらの研究は諸本の集成に主眼があり、本文系統の性格や伝流の検討が不十分である。かつ50年以上前の研究であるため、最新の知見を反映して更新する必要がある。なお、笹淵による校本は全20巻中わずか1巻にすぎず全巻の校本が未整備である点は、これまで研究が進展しなかった一因として指摘できる。

また、その本文批判においては、池田亀鑑『古典の批判的処置に関する研究』(岩波書店、1941年)以来採られてきた、古写本が残存する作品を対象にした方法が援用されてきた。しかし、『うつほ物語』のように古写本の残らない作品では、本文批判の方法を新たに構築する必要がある。

2. 研究の目的

現在、『うつほ物語』の最善本は、前田育徳会尊経閣文庫蔵本(以下、前田本と略称)である。付属の箱書から禁裏本の流れを汲むとされてきたが、その前田本の素性に関する検証はこれまでなされてこなかった。また、前田本系統諸本に対して詳細な本文批判による検討も加えられていない。本研究の目的は、この前田本について、中近世にかけての日記等を含む記録類や蔵書目録を活用して来歴を明らかにし、同系統本との校合によって、その伝流を解明することである。

3. 研究の方法

本研究は、外部徴証と内部徴証の両面から総合的な検討を行う。外部徴証を窺うことのできる資料として、日記等の記録類に加えて、近世前期の蔵書目録がある。近年、禁裏を中心とした蔵書に関する研究は進展しているが、『うつほ物語』の伝本研究にはその成果が活かされていない。例えば、大東急記念文庫蔵『禁裏御蔵書目録』は、万治四(1661)年大火で焼亡した禁裏の蔵書を記した目録の写本である。一般に蔵書目録は書物の作品名のみを外題から簡略に採るが、『うつほ物語』の場合は、より詳細に巻名まで記されている。この記載によって、大火以前に禁裏で所蔵されていた『うつほ物語』(禁裏本)の様相を知ることができるのである。

従来、『うつほ物語』の諸本は、主として本文の誤脱や錯簡、異同の有無など、本文の特徴によって四系統に分類されている。加えて、申請者の調査によれば、『うつほ物語』は系統ごとに共通した外題を有することが判明している。

したがって、蔵書目録の記載や調査した書誌を照らし合わせることで、前田本の来歴が推定可能になる。これらに加えて、記録類の記述を対照させれば、より確かな伝来を窺える。その上で、本文の校合と本文批判から得られる内部徴証を併せ考えることによって、前田本系統の伝流を明らかにすることができる。

以上のように、本研究によって前田本の素性および前田本系統の伝流が明らかになる。これを端緒として、前田本系統から他系統への書承関係を詳らかにし、『うつほ物語』の本文系統の形成過程を解明することができる。

4. 研究成果

『うつほ物語』の伝本や本文を主たる研究対象とする研究者は申請者のみとあってよい状況にあり、およそ50年以上前の研究段階にとどまっていたが、本研究課題によって更新された。

具体的には、従来同列に捉えられてきた前田本系統諸本が三種に類別でき、それが禁裏での編集・整理に伴うものであったと推定されることである。これによって、『うつほ物語』の本文成

立史のみならず、近世初期における禁裏の文芸活動の様相が詳らかになった。

近年は、『うつほ物語』の前田本やその系統本についての研究はもとより、伝本や本文に関する研究も皆無である。従来、前田本は最有力伝本に位置づけられながら、箱書の記述からしか来歴を窺えないため、その源流を詳らかにすることが不可能であった。

このような状況に対して、本研究課題は、目録学の成果を『うつほ物語』の伝本研究に活用した研究である。蔵書目録や記録類を分析することで、前田本に関する上述の新事実を提示することが可能になり、前田本系統諸本の本文を校合することによって、その伝流が明らかになり、当該分野の研究を大きく進展させることができた。これらを基にしつつ、今後新たに構築する本文批判の手法は、『竹取物語』『落窪物語』のような類似した残存状況にある作品にも応用することができるだろう。

その一方で、蔵書目録や記録類の蒐集・分析は、目録学や史学の研究を深化させることにも繋がる。例えば、近年進展を遂げている禁裏の蔵書に関する研究は、門跡寺院との関わりも視野に今後も検討を続けていく必要がある。平安期物語の伝本には、門跡寺院の蔵書が多数あるため、本研究によって伝本の来歴が詳らかになったことで、禁裏周辺の書写活動や蔵書形成、公家の事績など、目録学や史学における研究の進展が期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高橋諒	4. 巻 66
2. 論文標題 静嘉堂文庫蔵『うつほ物語』紀氏本の本文と校合の痕跡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三田國文	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14991/002.20211200-0001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高橋諒
2. 発表標題 『うつほ物語』前田本系統本文再考
3. 学会等名 中古文学会関西支部会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------